

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol : 152

令和4年11月25日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



水稲ペースト 2 段施肥実証ほ場の収穫作業

「時代に対応した農業に向けて」

総括次長 安達 芳則

今年7月、県北部での記録的な大雨により水稲作柄への影響が懸念されましたが、県内の作況指数は「100」の平年並みの発表となり、当地域も無事収穫の秋を迎えました。一方、農業情勢は、海外に端を発した出来事が引き金となり、燃料、肥料等の各種生産資材の高騰となって農業経営に影響を与えています。県では、「資材価格高騰等に関する営農相談窓口」を開設しています。御相談ください。生産資材にも関連しますが、この7月、「みどりの食料システム法」が施行されました。環境負荷低減と持続発展に向けた技術開発や実証、研究普及を推進する「みどりの食料システム戦略」の実現がこの法律の柱となります。唐突感や経費増などの意見もありますが、欧米の先進国は脱炭素や持続可能性（SDGs）の方向に向かっており、環境にやさしい農業を目指すことは、先々を見据えた重要な取組と考えています。今春、市内の水田で実施された水稲の二段施肥の実証展示も先駆的な取組にあたると思います。最後に、当管内では気仙沼・本吉圏域産地戦略プランに基づき、重点振興品目の栽培技術の向上を推進しておりますが、先月より、県内でも新規品目となる「枝もの類（まつ）」の収穫・調製作業が行われ注目を集めております。また、南三陸町内で長ネギを栽培している（株）グリーンファーマーズ・宮城が、「第4回みやぎ園芸振興大賞（宮城県知事賞）」を受賞し話題となりました。

これらは、当普及センターの活動にもかかわってきておりますが、今後も活力ある農業・農村づくりに向け、活動を展開してまいります。

●新農業士の紹介

及川 誠司さん（指導農業士）



及川誠司さんは、南三陸町志津川田尻畑地区で花き栽培経営（施設、露地）を行っています。平成13年に就農し、輪ぎく栽培に取り組んでいましたが、東日本大震災で施設が全壊したため、同地区の仲間と南三陸町復興組合「華」を設立して、平成24年に施設を再建しました。以前は農協経由の花き市場出荷のみでしたが、近年は農産物直売所や業務用スーパーなどにも出荷するため、輪ぎくの他にスプレーぎくを品目に加え、周年栽培を行っています。

年に数回、地元小学校で菊作りの指導をしており、子供たちに菊作りの魅力を説明しています。

○及川さんから一言

この度、指導農業士に推薦して頂きました。震災から施設を再建するまで多くの人に支えられてきましたので、これまでいただいた恩を指導農業士として多くの農業者にお返ししていきたいと思っています。

芳賀一充さんは、平成26年に株式会社小峯興業を設立され、気仙沼市本吉地区で水稻の栽培と作業受託を行っています。

水稻の肥培・水管理や病害虫防除を丁寧に行い、中山間で小規模のほ場が多く、やませの影響も受ける当地域で品質の高い米づくりを実現しています。その技術は県内トップクラスで、令和2年度の県農林産物品評会では農林水産大臣賞を受賞されました。また、独自に販路開拓を行うことで、安定した経営を実現しています。

省力化に向けた湛水直は栽培の拡大、県のブランド品種である「だて正夢」、「金のいぶき」の作付などにも積極的に取り組み、普及センターの活動に対しても積極的に御協力いただきながら、地域農業をけん引する重要な役割を果たされています。

○芳賀さんから一言

震災で被災したほ場から始まった「農」を生業とする日々は、自然の恵みと厳しさに一喜一憂しております。しかし、今こうして農業に向き合えるのも地域の皆様、関係機関の皆様のお力添えに支えて頂いてのことと感謝の気持ちでいっぱいです。先人からの篤農のバトンを次の世代に渡すことが出来るよう、農業にしっかり向き合うと共に真摯に取り組んで参りたいと思います。

株式会社小峯興業 芳賀一充さん（指導農業士）



伊藤 華さん



伊藤華さんは、令和4年2月に気仙沼市羽田地区で新規就農しました。伊藤さんは、非農家の出身ですが、農業に興味を持ち、夫の貴彦さんの後押しもあって、農業の世界に新規参入しました。

就農に当たっては、JA、知り合いの農家、市役所から遊休ハウスの紹介・借用、新規就農の書類作成の支援を受けるとともに、家族で協力し、楽しみながら農業に従事しています。

現在は、ブドウやトマト・トウモロコシ等、様々な作物を栽培して自分に合った品目を見極めているところで、収穫した農産物はJAの直売所「菜果好」に出荷しています。伊藤さんに「農業を始めて嬉しかったことは？」とお聞きしたら、「直売所に出荷した時に、お客さんに声をかけられた時は嬉しかった。」と笑顔で答えてくれました。

●新規就農者の紹介

●株式会社グリーンファーマーズ・宮城がみやぎ園芸振興大賞を受賞されました！

県の園芸振興に貢献している団体を称える「みやぎ園芸振興大賞表彰」で南三陸町の「株式会社グリーンファーマーズ・宮城」（渡部恵社長）が大賞（知事賞）を受賞しました。ねぎの生産量をJA新みやぎ管内トップまで拡大させ、地域の雇用にも力を入れている点が評価され、8月31日に県庁で表彰式が行われました。

（株）グリーンファーマーズ・宮城は、震災直後からボランティアとして東京から訪れていた渡部社長が雇用の場を作ることと、歌津地区の遊休農地を活用するため2013年10月に仲間と設立しました。従業員は9名、移住者を含め平均40歳代と若い職場で地域の雇用に貢献し、南三陸町の農業の重要な担い手として活躍されています。

● 渡部社長より一言

今までついてきてくれた従業員や様々な支援をいただいた関係機関の皆様へ感謝したい。失敗もあったが、多くの経験を通じて自分たちのやり方を確立できた。今後も挑戦する心を持って農業を頑張りたい。

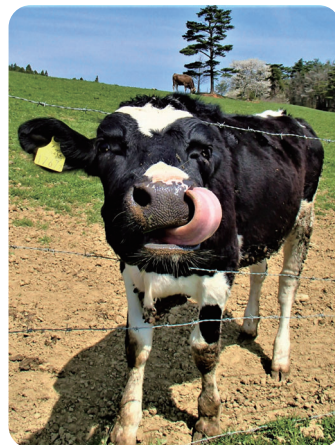


渡部社長（右）と
妻の侑子さん（左）

● 法人紹介 ● 農事組合法人モーランド ●

農事組合法人モーランドは平成13年3月に設立され、乳用育成牛約70頭の放牧や有機肥料センターを設置して有機肥料の製造販売を行い、地域の畜産振興や耕畜連携の役割を担っています。特に、有機肥料センターは、肥料の価格高騰もあって、堆肥の有効活用について関心が高まり、地域農業の重要な拠点施設となっています。

また、観光・体験牧場の機能を活かし、体験施設でのバターづくり体験・小動物とのふれあい等生産者と消費者の交流推進にも取り組んでいます。コロナ禍の中、3密にならずに思いっきり体を動かせることから、お子様連れの方も安心して来場されています。今年の営業は11月で終了しますが、来春、営業が始まりましたら、たくさんの方に来場いただきたいと思います。来春のオープン日等については、ホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。



暖かくなったらまた来てね!

農事組合法人モーランドホームページ
<https://www.moolandmotoyoshi.com/>



● トマトケチャップづくり講習会

令和4年9月6日、気仙沼市のクッキングスタジオにおいて、農産加工技術の向上と農産物の消費拡大を目的に、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会と共催によりトマトケチャップづくり講習会を開催しました。講習会には22人の会員が参加し、市内キッチンスペース夢の舎（ゆめのや）シェフの石田幸子氏を講師に迎え、手作りトマトケチャップとケチャップを使用した料理4品の調理を実習しました。参加者からは、「多くのメニューを実習することができ、とても勉強になった。」と大変好評でした。



● 気仙沼・南三陸せり栽培研修会

令和4年9月2日、せりの栽培技術習得を目的として気仙沼農業改良普及センターと新みやぎ農業協同組合が共同で栽培研修会を開催しました。

市場担当者から、主力産地の現状や当地域での生産拡大への期待を解説いただくとともに、県農業・園芸総合研究所から、せりの県オリジナル品種の特性や今後の栽培管理、病虫害防除等について講演がありました。現地ほ場では、生産者から現在の栽培状況についてご説明いただきました。

参加者からは、施肥量の質問や活発な意見交換があり、栽培技術習得に向けた意識の高まりを感じました。



● 「金のいぶき」栽培拡大に向けた研修会が開催されました。

「金のいぶき」はお米の品種の中でも珍しい玄米食専用品種です。胚芽が「ひとめぼれ」などの玄米と比較して大きく、GABAやビタミンEなどの栄養成分を豊富に含み、食感や食味が良い、低アミロース米のため、白米と同じ水加減・時間で炊けるという特長があります。

現在は需要に対して供給が追いついておらず、生産の拡大が求められています。

一方、「金のいぶき」は、施肥や病虫害の防除などきめ細やかな栽培管理が必要な品種であり、当普及センターでも昨年度から管内に普及展示ほを設置し、地域の条件にあった栽培方法を検討してきました。

11月16日に開催した研修会では、展示ほの管理を担当いただいた株式会社小峯興業の芳賀社長（気仙沼市本吉町）から、経験を踏まえた栽培の留意点を、県内の米卸業者である株式会社タカシヨク（栗原市）の佐藤社長から、需給動向についての御講演をいただいたほか、栽培方法等について普及センターから説明しました。

多くの消費者の方々に「金のいぶき」を味わっていただくとともに、管内水稻生産者の経営発展の一助となるよう、当普及センターでは、今後も栽培実証等の支援を継続していきます。

御興味のある農家の皆様は是非お問い合わせください。



令和4年度宮城県農林産物品評会及び花き品評会の受賞者について

令和4年10月22日(土)から23日(日)、宮城県農林産物品評会及び花き品評会がせんだい農業園芸センターを会場に開催されました。管内からは合計18点が出品され、審査の結果、下記の3点が入賞を果たしました。受賞された皆様、大変おめでとうございます！

御出品いただいた皆様、ありがとうございました。



🏆 **金賞**

宮城県園芸協会会長理事賞
株式会社仙花代表取締役社長賞
南三陸町 及川誠司氏(輪ぎく)



🏆 **銀賞**

南三陸町 遠藤吉司氏(輪ぎく)



🏆 **銀賞**

気仙沼市(有)気仙沼園芸
齊藤正博氏(シクラメン)

● 知って得するお役立ち情報 ~その1~ 「GAP について」 ●

■ GAP とは？

Good Agricultural Practices (訳：良い農業の取り組み)の頭文字を取ったもので、農林水産省では農業生産工程管理と呼び、取り組みを推奨している生産工程管理手法の一つです。

■ 内容や利点は？

具体的には農場の持続性に向け、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」、「農場管理」、「人権の尊重」、畜産の場合は「家畜衛生」、「アニマルウェルフェア」を加えた取組を行うものです。各生産工程や農場の管理方法について、管理すべき項目を定めて食品の衛生や作業の安全、働きやすい環境の確保をする際の指標になります。専門の機関が認証するJGAP、ASIAGAP、Global G.A.P. や地域・企業で独自に項目を設定しているものもあります。

■ 取り組むには？

実際に取り組むべき項目を見ると、その多さに「大変そうだな」、「うちではできないよ」と感じる方も多いと思いますが、実はすでに「当たり前」に取り組んでいることも多くあります。認証は専門の機関が行いますが、まずは普及センターまでお気軽にお問い合わせください。

● 知って得するお役立ち情報 ~その2~ 「BCP について」 ●

■ 「BCP はお金のかからない保険」

近年、数十年に一度と呼ばれる大雨や天候の不順が毎年のように起こり、農業分野も大きく影響を受けています。場合によっては廃業の危機も予想されますが、予期しない災害時、慌てず冷静に対応できる方は多くありません。

そこで、事前にできる備えや災害時の対応を普段から明確にしておくことで、いざというときも事業を継続できるようにするための計画がBCP(Business Continuity Plan: 事業継続計画)です。

実際に取り組んでいる農家からは、「災害対策について見直す良い機会」「判断スピードが速くなる」、「農業者もBCPを作成するのが当たり前の時代」、「農業版BCPの作成を周囲に勧めています」(農水省)など、好意的な声が上がっています。

「まずは身近なことから考える」BCPについて、考えてみませんか？

参考：農水省「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP」
(URL: https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html)

● 資材価格高騰等に関する営農相談窓口について

肥料や飼料、燃油等の資材価格高騰等に対し、農家の皆様の営農継続を支援するため、相談窓口を設置しております。御相談の際は、下記まで御連絡ください。

・受付時間：8:30~17:15(土日祝日を除く)

・電話番号：0226-24-2534(気仙沼地方振興事務所農業振興部農業振興班)